



## イギリスで新しく刊行された雑誌「Meteorological Applications」について

イギリス気象局 (United Kingdom Meteorological Office, UKMO) によって、1920年から刊行されてきた The Meteorological Magazine (月刊) は、1993年12月号を持って、廃刊と決まった。その旨が1993年9月号に広告され、同時に新しく Meteorological Applications という季刊誌が、王立気象学会 (Royal Meteorological Society, RMS) の専門雑誌として Cambridge University Press から刊行されることになったことも付け加えられていた。気象庁図書資料管理室では、この雑誌の定期購読を決めた。手元に見本として送られてきた第1巻第1号があるので、紹介したいと思う。

廃刊予定の The Meteorological Magazine は UKMO が編集刊行して、現業的な色彩の濃い論文で構成されてきた。投稿者は主として UKMO の職員であるが、世界中から投稿されていた。一方新しく刊行される Meteorological Applications は、editor は Meteorological Office College の R. W. Riddaway という人で、editorial board には、イギリス、フランス、ドイツ、オーストリア、スウェーデン、オランダ、デンマーク、アイルランドの気象局や大学のメンバーが名を連ねている。

掲載する内容のカテゴリーは、original papers, reviews and news となっていて、論文については審査をすると明言されており、RMS の専門雑誌としての体裁を整えている。

以下に、editorial に書かれていることを簡単にまとめる。

気象学の応用 (利用) の領域が広がってきている。従来からの気象情報の質の向上と共に、新しい情報サービスが可能になったのは、

- (1) 大気過程の理解が深まったこと。
- (2) 新しい技術が、気象情報の作製と提供の仕方に多様性をもたらした。
- (3) 気象情報に対するユーザーの要求の多様化に基づく。

Meteorological Applications は次のような情報を、

応用気象学の研究者、予報官、気象情報の利用者に提供することを目的とする。

- (1) 気象情報の利用と経済効果。
- (2) 気象情報の利用を支える科学技術。
- (3) 現象の解析や予測。
- (4) 数値モデルの性能と結果の解釈、その他の予報支援。
- (5) 海洋や気候モデルの実用的な利用。
- (6) 観測、データ交換、データ処理、データ表示システム。
- (7) 技術訓練法、コンピューターを利用した学習法。

この目的のため、権威があり、興味深く読み易い、品質の高い論文を出版する。合わせて、主としてヨーロッパにおける気象事業の国際協力を促進し、その成果を記録する役目も負う。

第1巻第1号 (続いて第2号も) の内容は、1993年9月に Oxford で開催された、第1回気象利用のヨーロッパ国際会議に提出された論文の中から優れたものを収録したとある。

巻頭を飾っているのは、K. A. Browning and G. Szejwach の「予報のための観測システムの進歩」と題する review paper で、極軌道衛星、静止衛星、地上レーダーシステム、風と気温のプロファイラーの展開、雷探知システム、実況観測システムの進歩、様々なソースからのデータの結合、機械化された予報システムの中で人間である予報官の役割などが論ぜられている。

その他の論文として、「天気予報の商業利用について」、「天然ガスの消費・販売と気象の関連」、「ヨーロッパの気象サービスの歴史」、「最新の天気予報における診断ツールの役割」、「天気予報のもたらす経済効果の評価」、「熱力学指数、人工衛星、レーダーデータを用いた北西ヨーロッパにおける雷雨の発生予測」、「ハンガリーの商業的気象サービス活動」、「1993年5月3日の赤外面像に示された上層の前線波動」が掲載されている。

その他に「ノートとニュース」と「諸会議の呼びかけ」と広告のページからなっている。

気象庁図書資料管理室に居て、1926年から続いてきた英文誌 The Geophysical Magazine の編集にたずさわっている者として、この経過には複雑な心境にならざるを得ない。気象庁と気象学会が協力して、アジアを舞台として同様の雑誌を刊行することはできないものだろうか。

ちなみに、年間購読料は、96ポンドまたは172米ドルとなっている。日本における機関購読者には紀伊国屋書店が対応すると記されている。

(気象庁図書資料管理室 高谷美正)